

「読むこと」から「書くこと」へ繋げる

技能統合型の授業実践

— 読んだ内容をもとに考えや意見を述べることを通して —

学籍番号 229303

氏名 浦田 祐輝

主指導教員 加賀田 哲也

1. 研究の背景と目的

本教育実践研究は、生徒の「書くこと」に対する技能や意欲の向上を目的とした。これまでの英語教育では文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれ、「話すこと」及び「書くこと」の活動が十分でないことが課題であった。この課題を踏まえ、4技能5領域のバランスの取れた指導はこれまで以上に求められており、この課題を改善する施策として、技能統合型の授業が適していると考えた。聞いた情報や読んだ内容を理解し、それに対して意見や考えを他者に伝えるという活動を行うことで、生徒の「書くこと」の技能や情意面の向上がみられるのか調査する。

2. 研究方法

まず初めに、授業観察や「書くこと」のパフォーマンスや質問紙調査を通して、生徒の「書くこと」に関する技能面や情意面の実態把握に努めた。「書くこと」に関する現状を把握した上で、「読むこと」から「書くこと」へ繋げる技能統合型の授業を実施した。ライティングの技能を評価するためにルーブリックを用いた。また、情意面については質問紙調査を行い、今回の授業に対してどの程度意欲的に取り組むことができたのか、またどの程度理解することができたのかという生徒の自己評価を通して考察した。この上で、中学生を対象とした技能統合型の授業はどのような点で教育的効果がみられるのかまとめた。

3. 基本学校実習の概要

授業観察の結果、「書くこと」に関する活動は新出文法の理解のために行われる活動が中心であり、自身の考えや意見を述べることやまとまりのある文章を書く機会は限られていた。自由英作文「自己紹介」を通してライティングのパフォーマンスを調査したが、機会が限られている生徒にとっては馴染みのあるテーマであっても約3割が低い評価となった。質問紙調査の結果では約7割が「書くこと」に苦手意識を持っており、この「自己紹介」の活動に対しても約6割が難しかったと回答した。この課題に対してリーディング活動を踏まえてライティング活動を行う技能統合型の授業を実施することで、リーディング活動で得た知識をライティング活動で生かすことができ、書くことが容易になると推測し、発展課題実習にて行うことにした。

4. 技能統合型の授業実践

技能統合型の実践では社会的な話題を読んで内容を理解した後に、その話題に関連したテーマで自身の考えや意見を書くという授業を2回実施した。本文の内容理解では主に内容に関するQ&Aや英問英答を解く活動、またその応用として本文に関する問いをグループで作成する活動を行った。自身で問いを作成することで生徒の主体性を促し、それに伴い本文理解が促進されることを期待した。ライティング活動では苦手意識を持つ生徒が一定数いることから、その活動を容易にする手立てとして書き出し部分の指定やモデル文の提示、アイデアの抽出を促す活動など試みた。ライティングの成果物はループブックを用いた3観点別評価を実施した。「知識・技能」では英文の正確さを評価し、「思考・判断・表現」では2つの条件を設けた。「主体的に学習に取り組む態度」については「思考・判断・表現」と一体的に評価することとした。

5. 結果と考察

今回の実践では授業の兼ね合いもあり、ライティングの技能の向上を正確に調査することはできなかった。その為、質問紙調査を通して、技能面や情意面の調査を行った。技能面では約3割の生徒が自身の考えや意見を十分に書くことができなかったと感じており、今回の授業では生徒の「書くこと」の技能向上には結びつかなかった。情意面においては約7割以上の生徒が肯定的な回答をしていることから、活動に対しては意欲的に取り組むことができたと感じているようである。「読むこと」から「書くこと」へ繋げる技能統合型の授業による教育的効果として、実際に授業を実施した筆者や質問紙調査の自由記述に見られた生徒の反応を基に以下のようにまとめた。

○生徒側の効果

- (1)リーディング活動で得た知識をライティング活動で生かすことができる。
- (2)本文の単語や熟語などを活用でき、語彙力が不足している生徒にはヒントとなる。
- (3)本文の内容を自分事として捉え、自身の考えや意見を述べるができる。

○教員側の効果

- (1)リーディング活動からライティング活動へ円滑に進めることができる。
- (2)本文の単語や熟語などを活用させることで、語彙力の強化に繋がる。
- (3)リーディング課題とライティング課題があることで、生徒自身の考えをより引き出し、深めることに繋がる。

本文の内容に基づいて英文を書くことで、生徒自身の考えや意見をより表現しやすい活動となった。活動を通して本文をより深く読み、自分事として捉えることができることがこの授業の最も魅力的な部分であるといえるだろう。ただし、生徒の考えが本文の内容に影響を受け、アイデアの発想を妨げる要因となったことはこの実践における課題である。この課題に対しては“What do you think?” “How about you?” など生徒一人一人に訴え、自身の意見を深めていくようなやり取りを軸として授業を実践していく必要がある。